



## 「いしかわ観光特使」活動報告書

氏名	高橋 一
職業等	会社員

震災後、普段都内で一人住まいの母親が心配なので、10日間ほど石川県に送り出しました。母親は、親戚又は実家へは身を寄せずに、能登空港からの予定を組み出掛けて行きました。平時では予約が困難な“能登ランプの宿”他の予約は、旅行を自粛された方が多いようで、思いの他容易に予約が取れ、しかも往復の飛行機も空席が多かった為に、運賃が16,000円位節約になったと申しておりました。

宿泊先の方も能登より小松市内宿泊を経て、金沢市内の宿泊では宿泊代金が4,000円以上割引になっていて、夕食のカレーライスまでサービスになっていた様です。

震災後の私の仕事での日常の訪問先でも、一連の東電の計画停電や津波への風評で予定していた伊豆や箱根への旅行が取りやめになっている方が何名かいらしたので、このような時期に県のPRはどうかと迷いましたが、県のパンフレット等を活用させて頂き、先の母親の話を致しましたところ、皆さん連休前の時期ということもあり、又は、計画停電も津波も心配のない、能登や他の石川県内観光施設への旅行を大変興味を持って頂きました。5月には、皆さんには、特に“ランプの宿”等の普段予約が取りにくいところへは、予定していただければ幸いです。

県の東京事務所の方からも、県内の宿泊施設他観光施設の状況を聞きまして、震災後の自粛ムード等でキャンセルが相次ぎ死活問題になっているという事ですので、頂いた資料も最大限に活用して、石川県内への誘客を（被災地の方々には、この時期大変心苦しいものがありますが、）少し控えめに、旅行を延期又は、取りやめになっている方にPRさせて頂きたいと思えます。石川県への旅行者を一人でも今の時点では増やして、県内の観光収入及び地域経済に少しでも役立ちたいと存じます。

裾野の広い観光経済が今しぼんでしまつては、東北地方の被災者の方々への県内からの継続した支援にも支障が出てしまうのではないのでしょうか？